

夢 塾 だ よ り

～ 志村けんと高山医師 ～

(第33号)

令和2年4月30日



コロナ禍で世界が一変しています。人類が体験しなかった未曾有の世の中になっています。そんな中、志村けんさんがコロナウイルス感染症で逝ってしまいました。衝撃的な事でした。その志村さんが2002年に出した「志村流」という本がたまたま私の書棚にありまして、読み返してみました。

20年前に読んだときより、今読む時の方が、一文字一文字が生きて語りかけてきます。本の中に志村さんのすべてを知り尽くし、長年仕事を共にしてきた放送作家の「朝長」さんが志村さんを語る場面があります。『・・・バラエティー番組の中で一流と言われている人、さんまさんは、どんな対応でもできる人。首相から子供まで臨機応変に相手に合わせることができます。たけしさんは、ある種の天才で、自分の思いついた分野を制覇していくというか、いろんな方面に進んでいけます。で、志村さんはというと、本当の職人。お笑い、特にコントという部分において鍛錬に鍛錬を重ねて来た人・・・芸人としての価値という点では、家造りを例にとると、昔ながらの日本家屋を作らせたなら、天才的な大工さんではないでしょうか。ずーっと伝統的な藁葺屋根（わらぶきやね）の家造り一本でいっているところに、志村さんの価値があると思います。裏を返せば、作ったものは国宝級といったところでしょうか・・・』

バカ殿様、変なおじさん、バレリーナ、国宝級ですね。

県立中部病院の高山義浩医師は、夏以降、次の流行の恐れがあるとしながらも、沖縄タイムスの記事で次のように語っておられます。

『・・・大切なのは不確実な未来に耐えること。感染がどう広がるか、どれだけ続くか誰にも分からない。おそらく数年間、私たちは見通しのたたぬ社会を生きる。断続的な外出自粛の中、仕事をこなし、学校に通い、人生を楽しんでいくことが求められる・・・』

医療現場の方々に今こそ私たちは、深い敬意と感謝の念を表すときです。こんな時代がこようとは誰にも予測できませんでした。が、高山医師の言うとおりの、こんな時代だからこそ、人生を楽しんでいく勇気を持ちたいと思います。